

地域別検討協議会学区別検討資料(後志学区)

後志学区高校配置計画の見込み												
区分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7~13 (2025~2031) 年までの 増減	令和10~13 (2028~2031) 年までの 増減		
学区内中卒者数	1,371	1,378	1,347	1,306	1,255	1,291	1,152	1,145	▲ 226	▲ 161		
対前年増減	▲ 24	+ 7	▲ 31	▲ 41	▲ 51	+ 36	▲ 139	▲ 7				
小樽市中卒者数	(728)	(726)	(690)	(682)	(626)	(629)	(590)	(596)	▲ 132	▲ 86		
対前年増減	+ 5	▲ 2	▲ 36	▲ 8	▲ 56	+ 3	▲ 39	+ 6				
学校名	令和6(2024)年度の 学科及び募集学級数			R6 (2024) 欠員	令和7(2025) 年度	令和8(2026) 年度	令和9(2027) 年度の見通し	令和10(2028)~13(2031)年度までの見通し		摘要		
	普通	職業	計									
小樽潮陵	5		5	14			公私比率勘 案後0~1 学級に相当 する中卒者 の減	4年間で公私比率勘案後2~3 学級に相当する中卒者の減				
単 小樽桜陽	5		5	15								
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	16								
小樽水産		水 4	4	47								
総 余市紅志	1		1	4								
単 岩 内	2	商 1	3	55								寿都の協力校
地 寿 都	1		1	14								
単 倶知安	4→3		3	0								蘭越の協力校 R6(2024)第2次募集後学級 減
地 蘭 越	1		1	30								
倶知安農業		農 1	1	18								
(*二セコ)		(農1)		(0)		(総合学科に転換)						
10校	19→ 18	10	28	213								

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域連携校。

注3 () は定時制課程。

注4 令和6(2024)年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。

学区の検討事項と現状・課題

学区の検討事項	現状・課題
○中卒者数の増減に対応しながら、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 令和9(2027)年度の定員調整等の検討に当たっては、41人の中卒者数の減のほか、市町村ごとの中卒者数の状況なども考慮した検討が必要 令和10(2028)年以降については、令和13(2031)年までに学区全体で161人、小樽市で86人の中卒者数の減が見込まれること、特に令和10(2028)年において51人(小樽市で56人)、令和12(2030)年に139人(小樽市で39人)の大幅な減が見込まれることから、小樽市内で配置の在り方の検討が必要 欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要
○地域の取組を勘案した特例的取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続20人未満となった場合は、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携し、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けた上で、再編整備の留保が必要